



# 尾山台小だより

6月号

(学校教育目標と目指す児童像)

～確かな学力を身につけ、心豊かにたくましく生きる児童の育成～

【徳】 明るい子 【知】 考える子 【体】 たくましい子



〔尾山台小ホームページ〕 <http://www.city.ageo.lg.jp/site/oyamadai-elementaryschool/>  
または、「上尾市」ホームページ → 「上尾市立幼小中学校」 → 「尾山台小学校」をクリック。

## 人生の学びは長く、学校を活用しながら

上尾市立尾山台小学校長 安藤 寛仁

6月は感慨深いものがあります。昨年度は、3か月にわたる臨時休校の果てに6月から登校が始まりました。今年度の4月5月を振り返ってみると、この2か月間だけでも校内では様々な出来事があり、学びがありました。日々小学生らしく成長する子供たちの姿に、学校でのリアルな学びが、いかにかけがえのないものであるか気付かされます。

1学期の中間地点であるこの時期に、学校に登校するというかけがえのない時間を、改めて見つめてみたいと思います。

親元から離れて学校という社会に出かけるわけですが、学校には、様々な環境の価値観の異なるご家庭から子供が集まります。そこで、ルールを設定し集団生活を毎日積み重ねながら、人間社会で必要となる知識といったものから、知恵や経験、時に友達と思いをぶつけ合い、他者を知り己を知っていくのです。また、協働作業を通して、考えを主張し、時に我慢し、折り合いをつけながら達成経験を積んでいく。こうして自己の特性や適性を知り、友を認めることから友情が芽生え、夢を育み、やがて、より広大な世の中で自分らしく幸せに生きるための準備をする。こうした貴重な学びが、日々交錯し螺旋を描きながら、人格の形成や人としての器を形成する。そのための貴重な場所であると考えます。

人としての器(うつわ)については、大きな器もあれば小さな器もあります。小さな器は、大きくしていくことができます。多くの本物に出会うことや、多くの苦労や逆境を前向きに乗り越えていくこと、何よりも、他者に変化を求めるのではなく、いかに自分の考え方を広げ磨き豊かにし、アップデートしていけるかがポイントになると考えます。同じ経験をしても、どのように捉えるかで、幸せにもなるし、不幸にもなります。すべては自分の心のありようで決まるものです。教育は「心のコップを立てること」とも言われます。小さなコップで、少し注がれたらあふれてしまうのではなく、大きな器を持ち、貪欲に学



県学力学習状況調査(5年生)



一人一台の端末でプログラミング(4年生)

びを注ぎ入れ、自らをもっともっと成長させて欲しいと願っています。自分にじっくり向き合う時間は大切であり、好循環への良い習慣を身につける事も必要です。

当たり前のように登校しなければならない日々を振り返り、なぜ学校に行くのか、子供によって捉えやこだわりが様々ですので、時に、ご家庭でゆっくり時間をとって、親の体験やアドバイス、我が家のルーツや子供への期待や思いなど、語っていただけるとありがたいです。